



ハリウッドの話
はなし

JAPN1231 Tadoku Spring 2023
ディラビラム ガブリエル

Gabriel Diraviam
Level 2



こんにちは。今、午前5時です。ハリウッドのサンセット大通
りの邸宅にいます。家の後ろに大きいプールがあります。プー
ルの中に死体があります。この死体は僕です。本当の話をし
ましよう。

かげつまえ ぼく なまえ
6ヶ月前。僕の名前はギリス・ジョーです。ハリウッドに住ん

でいて、仕事は映画のシナリオライターです。去年、仕事をが

んばって、きやくほんはオリジナルでした。でも、今はお金が

すく 少ないです。今日、じょうしと会って、僕の新しい映画のきや

くほんについて話します。先月、ぎんこうの人にお金を払わ

なかったから、僕の車をとろうをしましょう。だから、仕事

がいます。僕たちは話している間にじょうしのじよしゆの

女の人のおんひとのベッティが部屋に入ります。ベッティは僕がきやく

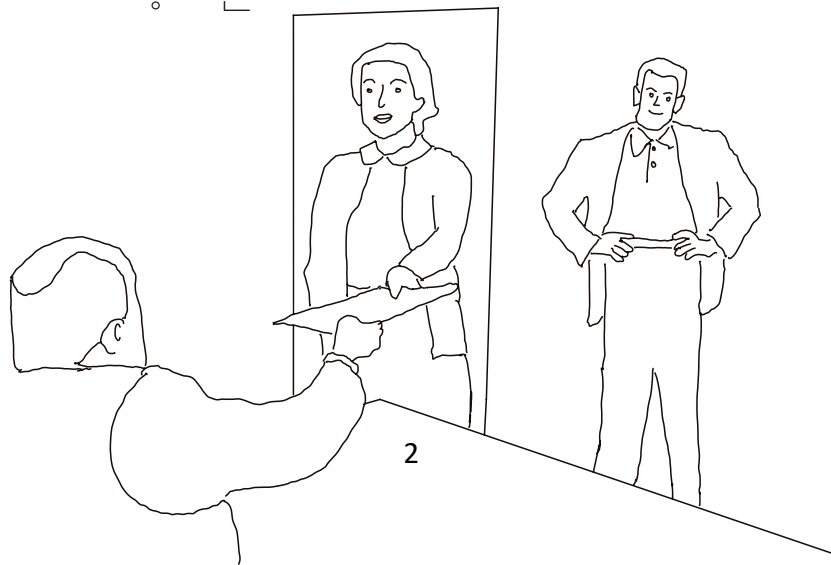
ほんを書いたか知らなくて、

「このきやくほんはオリジナルじゃないです。とても悪いですよ」

と言いました。じょうしも僕のきやくほんが好きじゃありません。

大変でした。出かけながら、銀行の人を見ます。銀行の人は

僕を見て、僕のところまで運転しました。



だから、僕は早く遠いところまで運転します。けれども、タイヤがパンクしたから道から出ます。大きな家を見て、ガレージに入ります。ガレージの中には、他のきれいな海外の車があります。家には二人は僕を見て呼びます。こわいけど、家に入ります。



いえ なか
家の中にはマックスというバトラーと知らない50歳の女の
ひと
人がいます。

「どうしてここにいますか」 女の人は聞きます。

「すみません。僕のタイヤがパンクしたからガレージに入りま
した。ちょっと待って、あなたを知っています。デスモンドノル
マです。静かな映画では有名なスターでした。」

「まだスターですよ！音だから、映画は変わりました。人々は
ほんとう
本当のスターを忘れてしまいました。」

「すみません。静かな映画を分かりません。僕はシナリオライ
ターです。」

「そうですか。自分のきやくほんがあります。その映画で私は
きれいで若いスターです。きやくほんを手伝いませんか」。

銀行の人から、出られません。ノルマのきやくほんを読みます。
とても悪いけどノルマはお金が多いです。それから、僕は手伝
います。



ノルマによると、家から出かけてはいけません。一緒に4

週間きやくほんの仕事をしします。ノルマとマックスはちよつと

変です。ノルマによると、まだとても有名なスターで、毎日フ

アンレターを百まい受けまます。マックスもノルマが世界で一番

いいスターだと言います。ノルマはお正月のパーティーのため

に僕にたくさん高くてりつばなことを買つてくれます。全然僕

にお金を払いません。たいていノルマと僕はノルマの静かな

映画を見まます。ある日、全部のドアにかぎがないのを見まました。

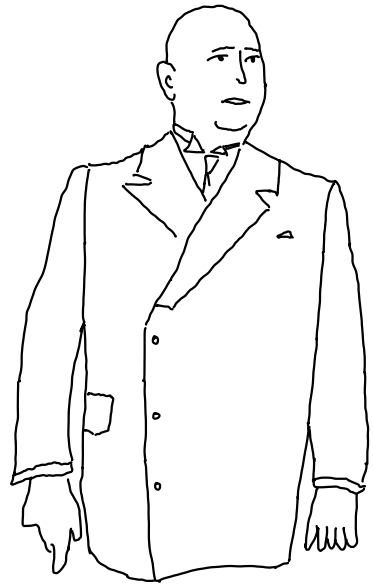
それをマックスにきまます。マックスによると、ノルマは時々

とてもかなしくなります。じきつみすいをしたことがあります。

だから、マックスは全部のファンレターを書まます。世界はノル

マを忘れまました。マックスはノルマにそれを知つていさせまません。

ノルマの全部の生活はうそです。



きょう
今日はノルマのお正月しょうがつのパーティーです。高たかくてりっぱでノル

マまがくれた服ふくを着きます。でも、かいだんしたの下いに行くとき誰だれも他ほか

ひと
の人がいません。とても変へんだと思おもいます。

ほか
ひと
「他の人ひとはどこですか。」とききます。

わたし
「いないよ。私たちわたしだけ。ギリスさん、分わかりますか？大だい好き
です。」



ぼく で ともだち しょうがつ
僕は出かけて友達のアルティーのお正月のパーティーに行き
ます。そこで、もう一度ベツテイに会います。

ひき あ
「久しぶりにギリスさん、会いたかったですよ。ギリスさんのき
やくほんを^よ読んで、一緒に仕事をした^{いっしょ しごと}いです。」

す
「いいですよ。でも、アルティー、ここに^す住んでいてもいいです
か。」

だいじょうぶ いえ にもつ も
「はい、大丈夫です。家に荷物を持^もってきて」

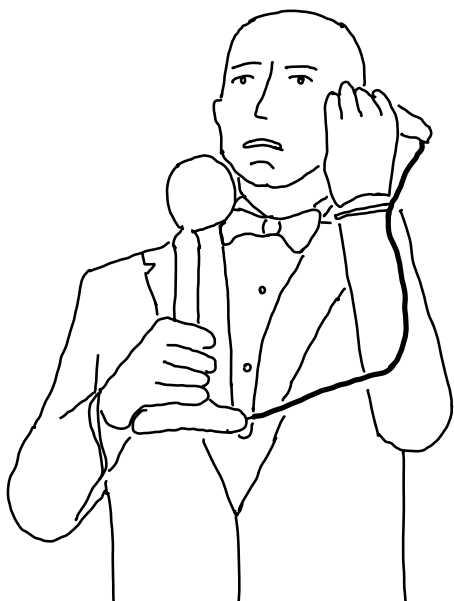
でんわ
「ありがとうございます。電話はどこですか。」電話をさがして、
マックスに電話を^{でんわ}します。

ぼく にもつ も くだ
「マックス、僕の荷物をここに持^もってきて下さい。」

いまはな
「ギリスさん、今話^{いまはな}することができません。デスモンドさんはじ
さつみすいをしました。」

「なに！」

しんばい はや いえ かえ
心配しながら、早く家^{はや いえ かえ}に帰ります。



ノルマの家に住み続けます。一緒にノルマのきやくほんだけ書
きます。それはノルマの友達のデイミルさんに送りたいです。

デイミルさんはパラマウントスタジオの有名なディレクターで

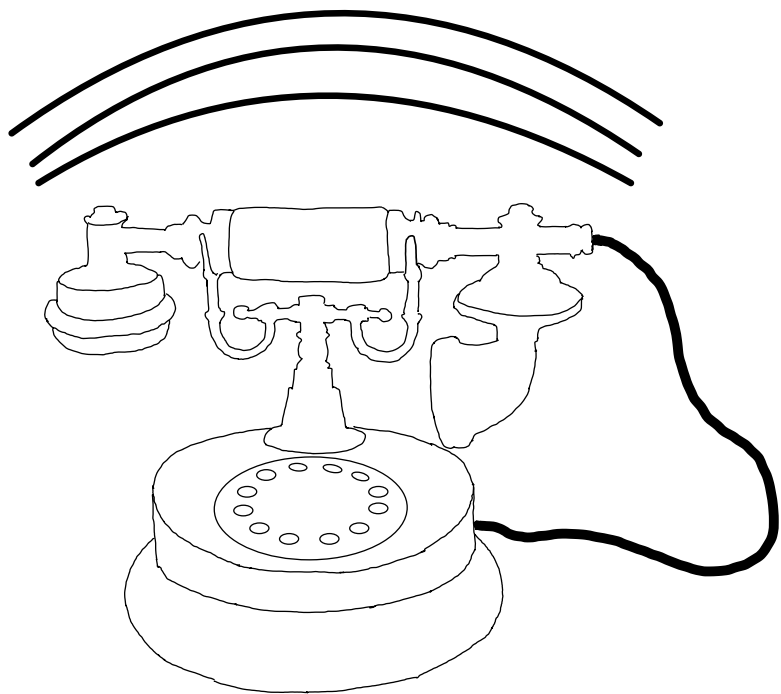
す。ある日、ノルマのきやくほんがかんぜんだから、それをデイ

ミルさんに送ることになります。ノルマは心配して、待ちます。

たくさんパラマウントから電話を受けるけど、全然デイミルさ

んからじゃないです。ノルマさんはとても有名で大切だと思っ

から、デイミルさんだけと話します。



ノルマはパラマウントスタジオに行くことにしてデイミルさんと
話すつもりです。スタジオでたくさんの人々はノルマを知って
います。デイミルさんは忙しくてノルマがここにいる理由が分
かりません。けれども、デイミルさんはノルマにとってもいい
で、スタジオの中でノルマと会います。僕とマックスは外で待
ちます。映画のプロデューサーは映画のためにノルマの車をか
りたいです。それだけ電話の理由です。残念ですね。ノルマが
年を取った後、誰もノルマの映画を作りたくないです。スタジ
オでもう一度ベッティを見ます。僕のきやくほんについて話し
ます。ノルマだから、ベッティと話す時間が少なかったです。
けれども、一緒に僕のきやくほんの仕事をするにします。

はな

ひとびと

いそが

りゆう わ

います。デイミルさんは忙しくてノルマがここにいる理由が分

かりません。けれども、デイミルさんはノルマにとってもいい

なか

あ

ぼく

そと ま

で、スタジオの中でノルマと会います。僕とマックスは外で待

えいが

えいが

くるま

ちます。映画のプロデューサーは映画のためにノルマの車をか

でんわ りゆう

ざんねん

りたいです。それだけ電話の理由です。残念ですね。ノルマが

とし と

あと

だれ

えいが

つく

年を取った後、誰もノルマの映画を作りたくないです。スタジ

いちど

み

ぼく

はな

オでもう一度ベッティを見ます。僕のきやくほんについて話し

ます。ノルマだから、ベッティと話す時間が少なかったです。

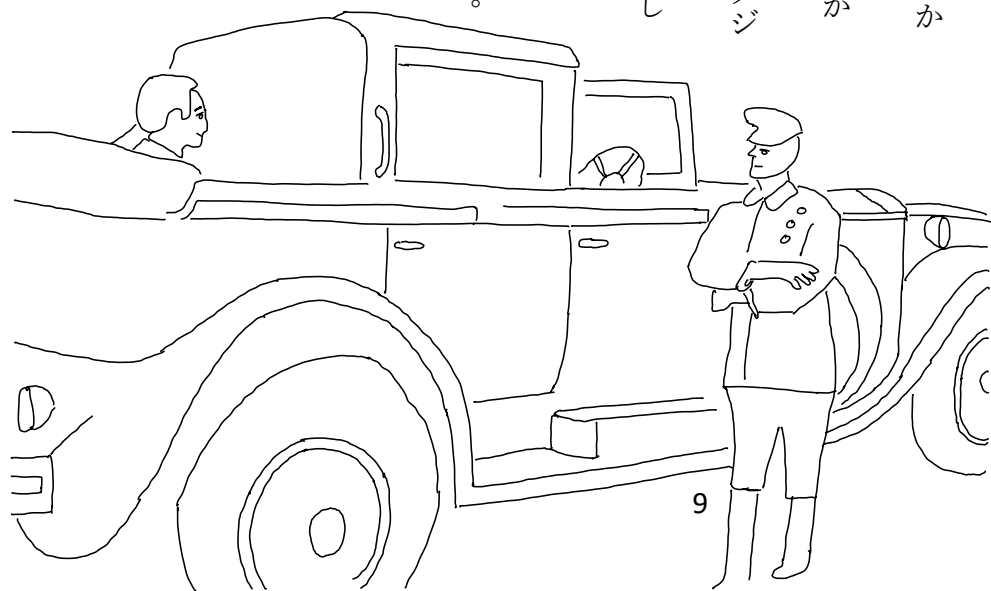
はな じかん すく

けれども、一緒に僕のきやくほんの仕事をするにします。

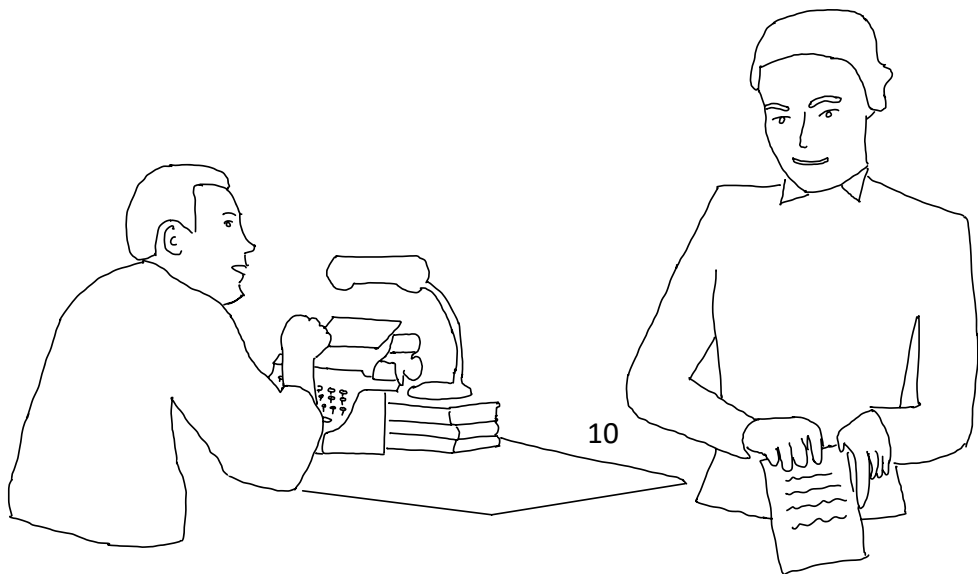
いっしょ

ぼく

しごと



ノルマはもう一度スターになろうと思っおもています。だから、たく
さんのエステティックをして、若く見られたがっわかみています。毎夜、
スタジオに行っいて、ベッティときやくほんの仕事をししごとます。ベッ
ティはハリウッドでそだちました。映画のはいゆうになりたがっ
ていたけど悪いはながあるから出来ませんでした。けれども、ベ
ッティは映画が大好きだから、がんばって、シナリオライターに
なりました。ベッティはいい映画だけ作りたがっえいがつくています。さい
しよはお金のためにきやくほんを書いたけど、今、僕もりっぱいまぼく
な映画を作りたいです。ベッティは僕がどこに住んでいるのか
知りません。僕の高い服をもらい方も知りません。はずかしい
から、言えませいん。



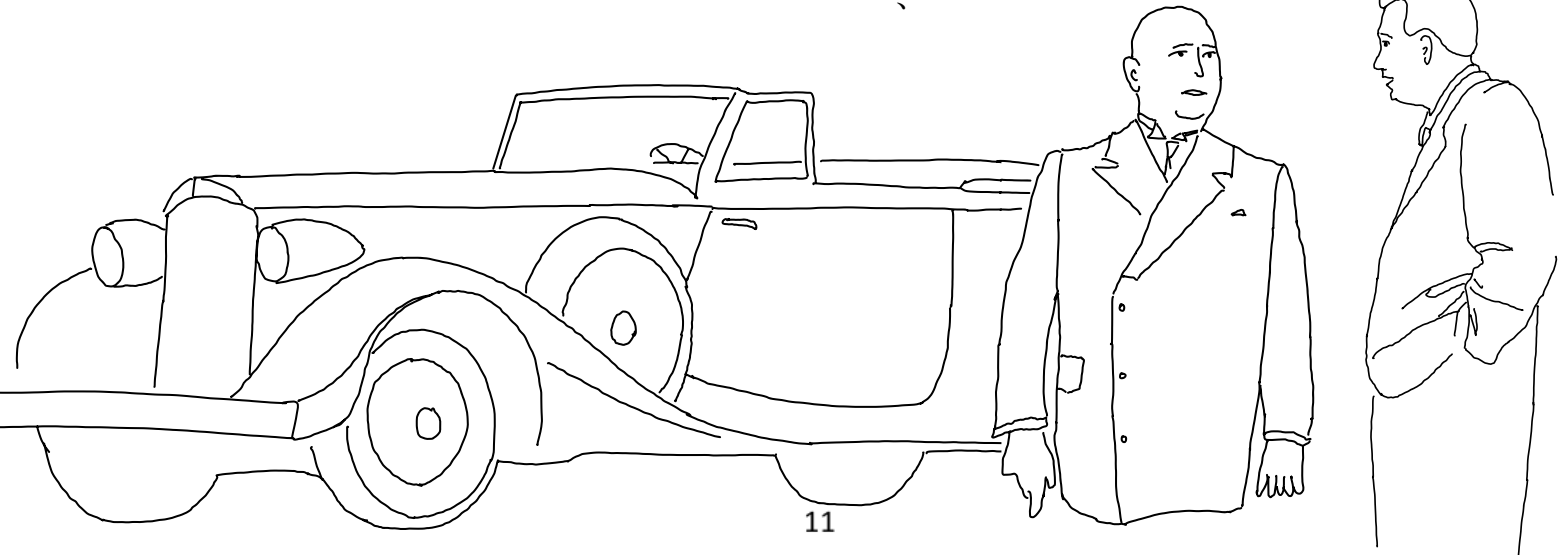
ある夜おそくに帰りました。ガレージでマックスは待っていました。

「気をつけてください。ノルマさんがギリスさんを見てはいけません。毎晩どこに行くについて聞きませんが、ノルマさんをおも

「ノルマはもう有名じゃないです。マックスさんはそれが分かります。いつもノルマにうそをつきます。どうして？」

「ノルマさんは有名じゃないものを習ってはいけません。僕は、かつて映画かんとくでした。僕は、ノルマさんが若い時、初めて見つけました。一緒にたくさん

をスターにしました。その後結婚しました。けれども、離婚してしまいました。ノルマさんは世界で一番いいはいゆうだから、もう一度映画を作りたくなかったです。それから、ノルマさんのバトラーになるように頼みました。」



ほかへや
他の部屋にはノルマがいます。僕が毎晩出かけるのか知っていないけど、理由は知りません。僕が寝るときにノルマは僕のもの
をさがします。僕とベッテイのきやくほんを見つけてからとても
ねたましくなります。泣きながらベッテイを呼んでみます。ベッ
テイは電話に出ます。

「もしもし。誰ですか？」

「ギリスさんについてどれくらい知っていますか。高い服をも
らい方を知っていますか。ギリスさん、あなたにうそをつきます」

「なに？」

電話が聞こえるから、ノルマさんの部屋に行つて、電話を取りま
す。

「ベッテイ、ジョーです。大丈夫です。この家に来てください。
全部について話します。家は10086サンセット大通り
です。」



ベッティは邸宅に着きます。とてもまごまごしています。

「誰の家ですか？」

「見てください。」家の中にノルマの顔の絵が百ぐらいあります。

「顔を知らないのかな。でも、名前は知っています。デスモンド

ノルマの家です。」

「分かりません。」

「ノルマと住んでいるから、たかさんのりっぱな服を着られます。

分かる？ 若い男の人と年を取った女の人…」

「ダメです！こちらを出かけて、一人で住んでいてください。」

「出来ませんよ。今、うれしいです。お金がない生活はとても

大変ですね。」ベッティは泣きます。

「ベッティ、出かけてもいいと思います。」



僕ぼくの部屋へやにかなしく帰かえって荷物にもつをつみます。ノルマは入はいって、

「何をなにしますか」とききます。

「僕ぼくの出身地しゅっしんちに帰かえるつもりです。これではダメです。ハリウツ

ドを出でかけます。」

「ジョー、出でかけると死しにます。これを知しっています。じゅうが

あります。」

「何も出なに来できません。でも、本ほん当とうのこわを分わかかつてくさい。フ

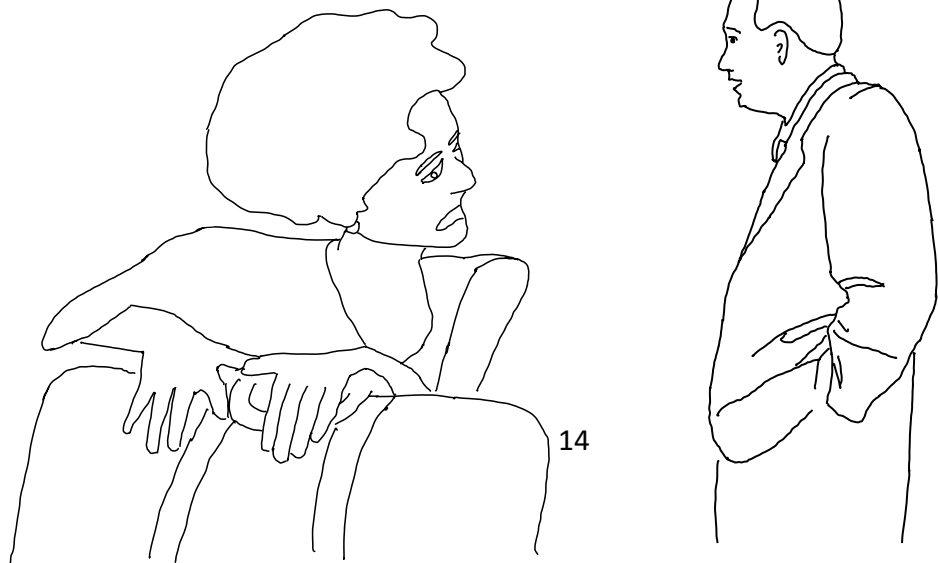
アンレターはありませぜんん。全ぜん然ぜんもいちどう一度有名いちどゆうめいになりません。」

「いいえ！うそです！私わたしのあたららのえいががのゆうめいは有名ゆうめいになります。マ

ックス、本ほん当とうですか」

「ノルマ、大おと人とじみさいて！50歳さいになつても大だい丈じょう夫ぶです。でも、

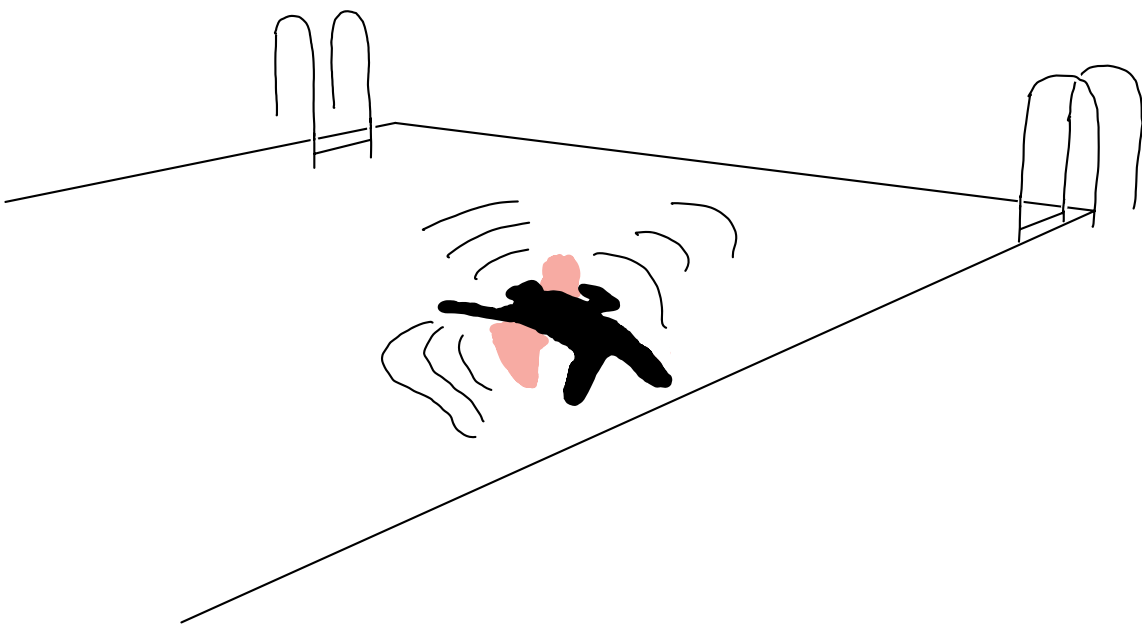
25歳さいになつてみまななくて。」



「そんなことはないです！まだ、^{せかい いちばん}世界で一番いいスターです。」
僕がドアから出て、^{ぼく}ノルマは

「誰もスターをすてません」と言います。^{だれ}ノルマは僕をじゅう

でうちます。プールにおちいってから死にます。^し



つぎ ひ
次の日、たくさんのけいかんときしやが家に来ました。人々は
いろいろ しつもん
色々な質問をノルマにききます。シヨックだから、何も言えま
せん。けれども、みんなさんはノルマの映画を作るためにここに
いるとおも
おもっています。

わたし
「私のシーンのじゅんびをしますか。どこにいますか。」

「こちらはきゆうでんのかいだんです。」とマックスは答えまし
た。
こた

「じゃあ分かりました。みなさんはきゆうでんのしたにいます。

ひめ ま
姫を待っています。行きましょう。」

カメラはもう一度ノルマをとっています。もう一度ノルマは
いちど

有名になります。かいだんの上にノルマは立って、下に見なが
ゆうめい
ゆうめい

おおごえ い
ら大声で言います。



「うれしすぎるから、続けられませんか。ちょっと話してもいい
ですか。ありがとう。もう一度スタジオにいて映画を作るからと
てもうれしいです。いつも映画を去らないとやくそくします。こ
の映画の後に他の映画を作って、他の映画を作るつもりです。
いつも、これは私の生活です。他のものはありません。私
たちとカメラと暗い部屋で見ている人々だけです。じゃあ、デ
ミルさん、シーンをとりましょう！」

終

おわり

This book was designed with Microsoft Word and Notability. With the exception of the cited images, all illustrations were drawn in Notability by Gabriel Diraviam.

Image references:

Page 1: Brad Coy. "Pool at the Paramour Mansion". <https://openverse.org/image/9ea6e613-8075-49ea-b858-fde8bb71a462?q=Pool%20at%20mansion>. (Accessed April 3, 2023).

Page 3: Ell Brown. "Bletchley Park House - Mansion". October 22, 2010. <https://www.flickr.com/photos/ell-r-brown/5105826326/in/photostream/>. (Accessed April 3, 2023).

